平成31年3月1日発行（毎月1日1日発行）第46巻第4号通巻563号　昭和49年2月2日第三種郵便物認可

# 剣道時代

KENDOJIDAI

3
2019 MARCH
NUMBER-563
MONTHLY KENDO MAGAZINE
定価860円
taiiku-sports.co.jp

横浜
七段戦
組み合わせ
発表

表紙&ロングインタビュー
RYOICHI UCHIMURA

## 内村良一

（平成30年度全日本選手権準優勝）
全日本選手権大会出場12回、
優勝3回、準優勝4回、3位1回。
警視庁剣道教師として
指導者の道を歩む内村良一は
どこまで進化しつづけるのか。

[特集]
新・剣道の技術
第46弾

# 特訓
# 打突力強化

この頃剣士の打突力が低下しているとの厳しい批判がなされいる。
確固たる打突力は剣道必須の条件だ

特別企画

## 復活！中央大学剣道部

中央大学剣道部がついに大学日本一に返り咲いた。
連続インタビューで復活までの軌跡を紹介する

少年剣道の現場シリーズ0

## 中学・高校の剣道継続率を伸ばせ

全国には地道に剣道普及に取り組んでいる
指導者がたくさんいる。
その取り組みを紹介する

内村

大会レポート

レディース剣道大会
若潮杯／志澤旗／青龍旗

連載

小説中山博道 堂本昭彦

剣道歴史案内 赤坂プリンスクラシックハウス（東京）
田原弘徳の面を取ってもとまらない

◆少年剣道の現場シリーズ⑧◆

# 中学・高校の剣道継続率を伸ばせ

全国には地道に剣道普及に取り組んでいる指導者がたくさんいる。
その取り組みを紹介する。

撮影＝杉能信介

撮影＝杉能信介

現場からの報告

# 家康公ゆかりの岡崎市 竹千代杯で剣道の魅力を感じてほしい

鈴木貴章（岡崎市立葵中学校教諭）

愛知県岡崎市中学校剣道部顧問会では毎年12月、中学校から剣道を始めた初心者を対象とした大会（徳川杯・竹千代杯争奪剣道大会）を開催している。岡崎市などの三河地区では中学校から剣道を始めるケースが一番多く、一人でも多くの中学生が剣道の魅力を感じてほしいと願い、大会は今回で10回目を迎えた。主催者の鈴木貴章教諭の報告を掲載する。

## 初心者中心の岡崎市 活躍する機会を与えたい

愛知県岡崎市は毎年9月に新人戦があり、翌年5月まで市内での団体戦がありません。そのため、約8カ月は試合などで競い合うことがほとんどありません。私自身が中学生の頃、冬で部活の時間が短く、試合もなくて目標がもてなかった経験がありました。そこで、冬場に目標になる大会があってもいいのではないかと考え、当時竜海中学校（現新香山中学校）の中野悟先生に相談をし、「団体戦の大会をつくろう」という話になりました。それが徳川杯争奪剣道大会のきっかけです。

## 特集 少年剣道の現場⑧ 中学・高校の剣道継続率を伸ばせ

岡崎市はもともと、剣道がそれほどさかんな地域ではありません。団体のチームを組むと、部活動をきっかけに剣道を始めた初心者中心のチームがほとんどです。県大会などの上位大会へ臨むためには、初心者の剣道技術の向上が必要不可欠です。

私自身、この岡崎市で生まれ、中学校で初めて竹刀をにぎりました。部活動で剣道と出会いましたが、性に合っていたのか、高校、大学と続けることができ、教師になる動機も部活動顧問をもちたかったことです。中学から剣道を始めた私が当時を振り返ると、初心者だけの大会があったら、上位目指して頑張れたのにという思いもありました。

県大会に上がるための西三河地区大会には、剣道がたいへんさかんな西尾市があるため、岡崎市内の学校は県大会に上がる前の地区大会でほとんどが負けて引退をします。それだけでなく初心者の選手は、試合に出場できず、部活動を終えてしまう者が多いのです。せっかく数ある部活動の中から選んでくれた剣道部。一度でも試合で活躍して部活動を終えてほしいという思いがありました。そこで、初心者による大会を、徳川家康公発祥の岡崎市と、幼名竹千代の名をお借りして、竹千代杯争奪剣道大会としました。竹千代杯を1年生初心者個人戦、徳川杯を岡崎市・幸田地区の団体戦と設定しましたが、せっかくなら岡崎市・幸田町の剣道部の生徒が一度は試合ができるようにと考え、B、Cチームもエントリーできるようにしました。

岡崎市は中学校から剣道を始める生徒が多く、初心者の生徒が活躍できる大会が竹千代杯だ

発足当時、試合会場の関係から生徒審判を入れないと運営ができませんでしたが、中学の剣道部を卒業した先輩に審判に入ってもらうこともありました。また、それは選手たちにいい刺激になりました。現在では、剣道部の顧問だった先生や剣道経験のある小学校の先生、市の剣道連盟の先生方がボランティアで助けていただき、審判も確保できています。

第10回目を迎え、今までこの大会に出場した選手たちが大会の役員として帰ってくるようになりました。その先生方にもお願いをして、ここ数年は会終了後に稽古会も設定しています。毎年クリスマスの時期に行われている大会ということもあり、先生方が厚好意で、景品を用意していただいています。徳川杯上位の学校からは自由に選んでその景品を持っていけることから、「上位入賞をすれば、たくさん景品がもらえる」と楽しみにしています。まさに年末のビッグイベントです。ある顧問の先生は「初心者大会があるから、必ず試合に出られて活躍できるよ」と、4月当初に入部をためらう生徒に声をかける先生もみえると聞きます。たくさんの方々のお力で何とか10回目を迎えることができました。感謝しきれません。

最近、若手と剣を交えることがありました。その中の子が中学校から始めて剣道をしたというので、「竹千代杯はどうだったの?」なんて聞くと、「あのとき、僕はすぐ負けてしまったんですよ。でもあの後、悔しくてとても練習したし、いい思い出です」と言ってくれました。私たちが手作りで始めた大会を覚えてくれていたことに驚きと嬉しさを感じました。特に1年生初心者にとってはほとんどの

差し入れの大会入賞賞品

鈴木貴章（すずき・たかあき）／昭和57年生まれ。岡崎北高校から名城大学に進み、卒業後、地元愛知県で中学校教員となる。10年前、初心者の中学生のために竹千代杯・徳川杯争奪剣道大会を立ち上げた。現在、岡崎市立葵中学校教諭、剣道錬士六段。

生徒がこの竹千代杯がデビュー戦。公式戦の舞台でどきどき、わくわくしながら試合をします。それが中学のよい思い出の一つになっているとのこと、うれしいかぎりです。

## 団体戦が組めない三河地区中学校の現状

三河地区の剣道部員の減少は深刻です。隣りの豊田市では、1、2年女子で団体戦のチームを組める学校が少なくなっていると聞いています。数えるほどしかありません。剣道がさかんな西尾市でさえも年によって5人そろわないこともあるそうです。同学年でチームを組める学校もわずかです。岡崎市も同じです。毎年4月、剣道部の入部希望者の数を見るたびに頭を悩ませることが多いです。この地域は原則、全員部活動参加制をとっていますので、生徒はどこかの部活に入部しないといけません。岡崎市は小学校にも部活動がありますが、バレーボールやバスケットボール部など球技系の部活動ばかりです。そのため、小学校から部活動で活躍している生徒はそのまま中学校でも同じ部活動へ入部することが多い。また同じ室内競技での部活動では、最近卓球部の人気が著しい。メディアへの露出度が低い剣道は逆風ばかりです。

さらに各中学校の生徒数が減ることに伴って、教員の数も減っていきます。顧問の先生が減ってしまえば、部活動の数を減らしていく方向にもなってきます。そうすると入部希望の少ない部活動から削減されていくことが多く、剣道が候補に挙げられることが少なくありません。現に、岡崎市内でもこの5年で3校の中学校で剣道部の活動がなくなりました。個人戦もあり、団体戦を組める人数がいなくても、試合に出場できる機会があるのだから、できる限り存続してほしいと個人的には願っていますが、部員が少人数なのに、顧問がつかなくてはいけないという現状を考えると、難しい面も出てきます。

また、中学から高校へ進学してから剣道部に入部する生徒もあまり多くありません。岡崎市・幸田町では、中学校の剣道部に在籍している数はおよそ600名（男子16校、女子15校）しかしながら、岡崎市内・幸田町の高校の剣道部員の数は200名。およそ3分の1です。

中学校で剣道部を卒業した生徒たちの中には、同じ武道で弓道部に入部している者がときどきいます。卒業生に話を聞いてみると、高校の剣道部は敷居が高そうでとてもついていけそうにないという声が多かったです。また中学校になかった部活動に魅力を感じ、その部に入部した子もいます。

竹千代杯に参加する生徒も年々減っています。一番多いときでは、男子112名、女子91名だったものが、今年は男子が78名、女子は58名でした。中学校の剣道部員数がかなり減少しているのがわかります。

## 大きな課題ガイドラインと部活動

教育現場に「働き方改革」という言葉が広がっています。その見直しの真っ先に挙がるのは部活動です。ガイドラインが制定され、今まで以上に部活動に制約が出てきました。部活動は課外活動であり、勤務時間を超過してまで行う必要性の低いものとみなされてしまいます。しかし、部活動は生徒の成長にとって大きな意義があると私は思っています。三年間同じ仲間とともに過ごし、苦しい思いや喜びを分かち合うことは何事にも代えがたいものです。

ガイドラインによる一番の影響は部活動時間数の減少です。中学校から剣道を始めた子が一本を取れるようになるにはとても時間がかかります。部活動の時間が削られれば削られるほど、そのような子が公式戦で勝つのは難しくなります。剣道の魅力を感じるには時間がかかるものだと私自身思っています。このままでは、引退を迎えるときに、剣道を選んで

よかったと思い、剣道に魅力を感じて去っていく子が少なくなっていくのではないでしょうか。

## 展望 剣道の魅力を広める

一時期、剣道部顧問を離れていた時期があります。その間、卓球部の顧問をしていたのですが、卓球の魅力を知ることができました。その競技には競技ごとにそれぞれ違った魅力があります。剣道には剣道の良さがあるのです。再び剣道部の顧問になったとき、剣道の魅力を強く語るようにしました。すると、生徒たちも剣道が好きになっていきました。剣道の魅力を言葉にして伝えていくことも剣道人口を増やしていくことにつながると気づきました。

そこで今回、第1回の竹千代杯入賞者に来ていただき、剣道をやってよかったこと、剣道が今の仕事に生きていることを話してもらいました。この話を聞くことで、中学校卒業後も剣道を続ける子が一人でも増えてくれると嬉しいです。

これは（左上）、現在私が勤務する学校の3年生生徒が卒業を前に思い出を綴ってくれた作文です。三年間の思い出に彼女は部活動のことを書きました。この生徒が夏に引退を迎えたとき、彼女の保護者から「先生、うちの子を最後まで見捨てずに指導してくださり、ありがとうございました」と涙ながらに言われました。決して器用な子ではありませんでしたが、本人がこつこつと努力した結果、試合で活躍することができました。

彼女が高校で剣道部を選ぶかはわかりませんが、この作文にあるように、剣道部で学んだことを生涯大切にしてくれれば本望です。

新任当初、卒業する生徒に対して、私はよくこう言っていました。

「高校でも続けてほしい。どこの高校へいってもやれるような礼儀作法も教えてきたし、厳しい稽古もやってきた。どこの高校へいってもやれるからぜひ、高校でも剣道をやってほしい」

それが今は、このように言っています。

「剣道ってすばらしいね。段も取れて、どの子も目標をもって剣道部で頑張ることができた。剣道という部活動を通して、剣道っていいものだってことが分かってくれたなら、ぜひそれを広めていってほしい。もし、あなたたちが将来大人になって、結婚して、子供ができたとき、この中学で味わった感動体験をぜひ伝えていってほしい。剣道っていいよって語ってほしい。そんな大人になってほしい」

剣道に携わらせてもらっている一人として、剣道を少しでも続けてほしいと思う気持ちは多分にあります。ですが、全員参加制の部活動で、限られた中から仕方なく剣道部を選んだ生徒もいます。そんな生徒もいる中で、剣道を続けてほしいと語るのは、押しつけではないかと思い始めました。しかし、せっかく選んでくれた剣道。自分のできる範囲でその魅力を伝えていこうと思いました。そして一人一人がいい思いをして部活動を終え、その魅力を広げてほしいと願っています。

この思いは高校の先生にも伝えています。教え子がいる高校の顧問の先生と話す機会があるたびに、「力がない子だってわかっています。でも、見捨てず、最後まで面倒を見てやってほしいです」と。レギュラーには華々しい舞台が待っています。ですが、それをつかみとれるのはわずかです。レギュラーになれなくとも、その高校の剣道に魅力を感じて入部した生徒が最後までやりきって、部活動を終えてほしい。高校の先生方も合わせて剣道の魅力を広げてくだされば、剣道人口が増えていくのではないかと思っています。

最後に、この大会が中学校から剣道を始める子にとって、剣道の魅力を感じる一つの機会になってほしい。そんな思いでこの大会をこれからも続けていこうと思っています。

## 私の誇り

私は剣道部に所属して、大好きな仲間と後輩、そして温かい先生方とたくさんの時間を過ごせたことを誇りに思っている。私は二年生の夏まで有効打突の本数が両手で数えられるほど少なかった。完全に同級生においていかれ何度も心が折れたが先生方は技術面、そして精神面でも熱心に指導してくださった。だから私は腐らなかった。

そして迎えた市長杯。レギュラーに入ってまだ5回目の大会だった。腕はあざだらけ、体のあちこちが悲鳴を上げていたが仲間とここまで必死に取り組んできた成果を出すときが来たことが何よりうれしかった。

とうとう決勝戦に来た。いくつものピンチを抜け、ここに来られたのは仲間がたくさん励ましてくれたり今まで負けていた相手に堂々と勝利してくれたおかげだ。五人の仲間がここに連れてきてくれた。だから何としてもこの場所でチームの力になりたい。会場内は決勝戦の音だけが響き神秘的だった。そんな中ついに入れた面は格別だった。

多くの人の支えと六人の絆で掴んだ準優勝と苦戦苦闘した日々は何ものにも代え難い特別な宝物だ。おばあちゃんになっても天国に行っても私はずっと大切にしたい。